

平成22年 10月分

大芝出張所管内	福間 さん
観察月日	連絡事項等
10月5日	<p>◎10～12^キポイント 本格的秋を迎え、堤や河川敷の緑が深まり始めた。酷暑に耐えた雑草たちは一気に成長を早め、散策を楽しむ私たちの目を楽しませてくれる。 10～11^キポイントでは、堤防斜面でススキとセイタカアワダチ草の群生が見られる。この時期、互いに背比べを始めるのだ。ススキが穂を伸ばせば、セイタカアワダチ草が黄色の花をつけた三角帽子を空に突き上げる。最近ではセイタカアワダチ草の黄色がかなりの勢力を伸ばしているようだ。</p> <p>11^キポイントの河川敷で、野菊の群生を見つけた。紫の小さな花卉が可憐だ。幹は数本だが枝いっぱい咲き誇る花の数が存在感をみせていた。 12^キポイントの安佐大橋たもとの舟溜まり周辺には、彼岸花の群生が見られた。このあたりは舟を降りる人が頻りに歩くせいか、雑木が少なく見通しがきく場所とあって、彼岸花独特の真っ赤な花が一層際立つ。そばの安佐大橋を車で渡っていても目に付くほどだ。 半径約5^キ周辺に4、50株はあるだろうか。花の時期は過ぎたとはいえ、緑や川面を背景に赤の輪が映える。この場所へ立ち寄ったのは午前10時ごろだったが、河川敷で休んでいたアユ釣りの人に聞いてみると、彼岸花は河川敷のあちこちで雑草の陰になった群生を見かける、という。ここから100^キ上流の河川敷でも2、30株の同様の群生が見つかった。</p> <p>河川敷で見られるこうした野草の花は人の目を楽しませてくれる。もっと群生の範囲を広げれば、野趣に富んだ風景がみられ、太田川の自然環境をよりアピールする手段にもなっているのではないだろうか。雑草の緑ばかりではなく野草たちの「百花斉放」を觀賞することが出来れば、散策の楽しみも倍加すると思う。</p> <p>【写真説明】 ①舟溜まりの周辺で鮮やかな赤の存在感を見せる彼岸花の群生</p> 

10月16日

◎9.6^キポイント

こちら辺りは水道水の取水口がある場所として知られている。「東部工業用水道」「戸坂上水取水口」が並んで太田川に口をあけている。

取水口の上流には機器類を防護する鉄製の柵が張りめぐらされている。その柵にあった写真の看板が目にとまった。

この看板には次のような文言が書かれていた。

『ここは広島県の水道施設です。

侵入者を目撃された方は直ちに警察署(110番)又は下記に御連絡ください。

なお、水道施設を〇〇し、その他水道施設の機械に障害を与えて水の供給を〇〇した者は、5年以下の〇〇、又は100万円以下の〇〇に処せられます。』を挿入してください。



不思議に思ったのが、欠字部分が数カ所あることだ。なぜ字が抜けているのか。まるで、「〇〇の中に適当な言葉を入れなさい」と、問題を投げかけているようだ。

この看板を掲げた理由が知りたくて、広島県広島水道事務所に問い合わせると、意外なことが分かった。元々、この箇所には赤字で書かれていた。ところが、長い年月、風雨にさらされて赤字部分だけが消えてしまったという。自然のいたずらで、意図したものではないことを強調されていた。注意を促す狙いだったのだろうが、思わぬ珍現象を生んでしまった。参考までに、消えた部分に当てはまる解答は上段から「損壊」「妨害」「懲役」「罰金」だそうだ。

◎上水供給の源

同事務所に問い合わせた機会に、取水状況を勉強させてもらった。工業用水は日量29万^トが広島県内の主要工場に送られているほか、呉市や島しょ部にも水道水として送られている。地下を直径1.3^尺から1^尺の太い水道管が動脈のように延びている事実も知った。

また、広島市の取水口からは9月平均でみると、日量4.8^トを牛田浄水場まで引いて浄化し、高台の配水池から東区と南区全域の家庭に送られている。

人々の生活に欠かせない水の供給源がまさに、この取水口なのだ。そこは当然、安全管理を怠ることはできない。看板の欠字から抱いた疑問をまた一つ解き明かすことができた。

【写真説明】

③鉄柵で防護された取水口上部の機器類



10月27日

◎大芝水門前

7月豪雨以来砂が堆積して中州を造ってしまった。水量が減少した最近では中州も広くなった。その中州に野鳥の群れが目立ってきた。昼下がり、羽を休める野鳥にカメラを向けた。

カワウとカモメ。白と黒の集団が互いに縄張りを主張するかのように羽を休める光景は、コントラストの妙がおもしろい。数の見当はつかないが、数百の単位だろう。

中州は外敵から身を守るのに最適なのだろう両集団とも動きは鈍い。だが、人の動きを察知した途端、激しく羽ばたき水面を離れる。近くで見ると、カワウもカモメも羽が思いのほか大きい。羽音もはっきりと聞くことができた。

このカワウは嫌われ者なのだ。太田川漁協組合の話では10年前ごろから増え続け、今ではアユの最大の天敵になっている。アユの産卵場所になっている安佐大橋から下流域には糸を張ってカワウの着水を防ぐ対策も取っている、という。カワウの群れを見るにつけ、釣り人の嘆きが聞こえてきそうだ。

【写真説明】

④大芝水門前の中州にやってくるカワウやカモメの群れ



管理第一課からの意見・感想等

10月のご報告ありがとうございます。

緑の草のなかで鮮やかな赤の花を咲かす彼岸花の群生は、秋の訪れを感じさせますね。

また、太田川に飛来しているカモメは、カモメ(キューウ、キュキュキュと鳴く。)、ウミネコ(ミャーとかアーとネコのような声で鳴く。)、セグロカモメ(翼の下面は先端だけが黒い。クワァー、アオと鳴く。)の3種類があり、大芝水門の上流の中州にもいますので鳴き声をよく注意して聞いたら違いがわかります。

これから、肌寒い時期になっていきますが、お風邪などを召されずに楽しんで頂きますようお願いいたします。